

第18回、岡山芹沢文学読書会 内容報告書

■場所：倉敷市庄公民館

■日時：令和6年7月21日（日曜日）13時30分～15時30分

■課題：「神の慈愛」第7章

■参加人数 9名

■筆記者：桑田幸真

= 読書会内容 =

・「21の心のほこり」について、光治良先生も親様も「心のほこり」をはらわれて、階段を1段の上られた。「こころのほこり」は、面白いことだが、神神のご守護から発生している。ご守護のせいではほこりが生じている。例としては、「おいしい」はオモタリノミコトのご守護、温みからきている。また、「腹立ち」はツキヨミノミコのご守護である。ツキヨミは立てる理である。人を立てる心。（報告者：山本信夫）内容は別紙参照ください。

・結婚は苦行であると書いている。大変なことなのだと思います。

・娘さんやお孫さんが海外で生活されているが、親様が光治良先生の徳によって生かされているとお孫さんに仰られている。心がじんとした。私達も徳を積むことが大切だと思います。

・この神シリーズは老人が樹と語らうという不思議な物語から始まっているが、先生が書かれたことを事実として読むことが大切なのではなかろうか。そのことにより、神の意志を読み取ることが大切ではないか。

・先生は9カ月で21のほこりを払われたと書いているが、凄い事だと思う。自力ではなかなか難しいのではないか。

・「神の微笑」を4カ月で書き上げたとは凄いことだ。

・神の守護がほこりに繋がるということだが、確かに食欲を与えられていることは守護でありよくの元になる。

・この章の中に7月21日に21のほこりを払われたと書いているが、今日はまさに7月21日であるではないか。親様は「今日はめでたい日」と仰ってる。なにか凄いご縁を感じると共に嬉しく感じる！

・あらゆる人間は、みな意識しなくても、親神の慈愛のもとに生きていると書いてある。みんな守られている事を感じてうれしく思う。

・先ほどもあったが、今日は7月21日にこの7章をみんなで勉強できることが嬉しく思う。神様のお計らいを感じる。偶然はないという教えであるから、それを実証されているのではないか。

・自分がこれまで作ってきた塔を、一度崩さないとはこりを払う事はできないのではないか。

・21のほこりについて疑問であったが、山本さんが調べて下さってありがたかった。

・この読書会は、軽い気持ちで始めたが、今回18回目をむかえた。開始日もなにげなく決めたが、丁度、7月に7章を学ぶことになった。ありがたいことだ。

・四女の玲子先生をほめておられるが、立派な方だったんだと思う。私もそういう風になりたい。私は潜在意識にほこりが残っているとしたら、どうすればほこりが払えるのだろうか？21のほこりについて教えて頂きありがたく思う。

・日本人が意地悪だから～の部分、これは反日教育のことであろう。朝鮮半島の人意識はいびつなものがあるが、昔、日本に文化を伝えたという意味（例えば遣唐使）でプライドが高いことに起因しているのかもしれない。

以上